

# 術後疼痛管理チームが始動

## 痛み軽減 合併症予防 をより迅速に



全身麻酔で手術を受けた患者さんの術後の痛みを専門にコントロールする「術後疼痛管理チーム」が5月に発足、本格的な活動をスタートしました。麻酔科医を中心に疼痛管理の専門知識を持った看護師、薬剤師がチームを組んで、手術後の患者さんの痛みの軽減、合併症予防、生活の質向上などの疼痛管理に当たります。活動はまだ一部の病棟に限られていますが、その実績を積み上げて、早期に全病棟で実施できることを目指します。

対象となるのは全身麻酔を受けた手術後に、硬膜外麻酔による鎮痛を行っている▽神経ブロックによる鎮痛を行っている▽静脈内に持続的に鎮痛薬を投与している、などの患者さんです。手術翌日から3日間、集中的にチームが疼痛管理を実施します。

具体的には、1日最低1回は麻酔科医、看護師、薬剤師3人のチームで回診を行い、患者さんから痛みの程度(痛み

### 新 診療科長等ごあいさつ



●内科系科長  
ほせん なおき  
**保仙 直毅**

内科系科部門は循環器内科、腎臓内科、消化器内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、呼吸器内科、免疫内科、血液・腫瘍内科、老年・高血圧内科、漢方内科、総合診療科、感染症内科の11診療科で構成されています。それぞれが各専門分野において最新の高度な医療を提供するとともに、各科相互の綿密な協力により、患者さんを全人的に診療し、患者さんにとって最も良い治療が提供できるように努力しております。また、先端医療や治験も推進し、臨床研究中核病院として最先端の医療をお届けすることにも尽力いたしております。どうぞよろしくお願いいたします。(令和5年5月1日就任)



●事務部長  
ただ のりふみ  
**多田 典史**

このたび医学部附属病院事務部長を拝命いたしました。これまで、前職である千葉大学病院事務部長を含め複数の国立大学病院で勤務してまいりました。また今回、教育・研究・診療、予算規模などすべての面において国立大学病院のトップランナーである組織の一員として勤務することに重大な責任とやりがいを感じております。令和16年度より法施行される医師の働き方改革や令和7年春に運用開始予定の統合診療棟の整備など喫緊の対応事業について、事務部として一丸となって取り組むとともに、引き続き健全な病院の運営・経営に努めてまいりますので何卒よろしくお願いいたします。(令和5年4月1日就任)

### 病院再開発基金へのご寄附のお願い

本院は、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、令和7年春の運用開始を目指し病院再開発事業を行っています。本事業には大学病院でしかできない臨床医学研究・開発など将来の医療に必要な部門の整備も含まれています。診療機能・未来への医学の研究開発機能のさらなる充実を図るため、今般、「大阪大学医学部附属病院再開発基金」を、大阪大学未来基金に立ち上げました。再開発のコンセプトは、「Futurability待ち遠しくなる未来へ。」です。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願いいたします。



●詳しくはこちらをご覧ください



1に対応します。対応の記録を診療録として残し、適宜、主治医や病棟の看護師や薬剤師らとも連携します。

スタート時点でチームの登録メンバーは麻酔科医11人、看護師12人、薬剤師1人ですが、所定の研修が必要な看護師(現在の修了者は12人中4人)と薬剤師は今後、研修を修了したメンバーが随時加わっていく予定です。現在は体制が十分に整っておらず、呼吸器外科(東7階病棟)、消化器外科(西10階病棟)、泌尿器科(腎移植ドナー及びレシビエン・西12階病棟)の患者さんから実施していますが、他科の患者さんでも要請があれば臨時に疼痛管理を実施することもあります。本院では従来、手術の前後を合わせた期間を専門に見る周術期管理チームが活動しており、2年ほど前から術後に特化した疼痛

管理の試行を開始してまいりました。令和4年度の診療報酬改定で術後疼痛管理チーム加算が認められたことを機に、本年5月から正式に術後疼痛管理チームを編成して活動を本格化させました。試行段階と大きな違いは、術後回診(午前10時から午後4時から)を必ず1日1回は実施し、必要なら2回実施していること、その回診に研修を終えた薬剤師が加わったことです。

**精神的ストレスも軽減**

手術後の疼痛管理はこれまで主治医が中心に行い、麻酔科医は相談を受けてから対応するという関わり方でした。しかし、痛みのプロフェッショナルである麻酔科医を中心とすべきだという考えが主流になってきたのです。チームリーダーで麻酔科の山本俊介

医師は、「術後疼痛管理チームは患者さんにとって、専門のメンバーによる対応でスピーディーな痛みの軽減ができ、合併症や薬剤の副作用をきめ細かく監視できるので、早期に起き上がれ、食事ができるようになり、結果的に入院期間短縮にもつながることが期待されます。また、患者さんに安心感を与え、精神的ストレスを軽減することで質の高い医療が提供できることを目指しています。加えて手術を担当する主治医らの負担軽減にもつながります」とそのメリットを強調します。4月から回診に加わるようになった岡谷梨沙薬剤師は「薬剤師だけでは、手術直後の患者さんへのリアルタイムな介入が難しかったですが、チームで介入することで痛みを訴える患者さんに迅速に対応することができ、薬剤による副作用

従来、病棟での鎮痛薬の投与は看護師が中心で、副作用などの懸念から控えめな投与になる傾向がありました。チームの活動で、病棟の看護師もすぐに相談できる体制になり、患者さんが痛みを感じた時に、我慢せずに一定限度内で鎮痛薬を専用機器のボタンを自分で押して投与するPCA(自己調節鎮痛法)が広がる

病期 阪大病院 NEWS No. 91 号

OSAKA UNIVERSITY HOSPITAL

2023(令和5)年7月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)  
住所/〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15  
TEL / 06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

### マスク着用をお願い

私たちの隣に  
とても感染症に弱い方がおられます  
マスクの着用をお願いいたします

この病院には、病気が治療により免疫力が落ちた方がたくさんおられます。待合室でのあなたの隣の、向かいの患者さんがそうかもしれません。少しでも正しいマスク着用によりウイルス拡散の可能性を下げてください。よろしくお願いいたします。

大阪大学(博士)

新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用の考え方が見直され、令和5年3月13日からマスクの着用については屋内・屋外にかかわらず個人の判断に委ねられることになりました。

ただし、病院や高齢者施設など、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人が周りにいるときには、普段よりも感染を広げないための配慮が必要です。

厚生労働省も病院や高齢者施設についてはマスク着用の推奨を継続しており、本院でも当面の間は院内のスタッフ、患者さん、ご家族など全ての方にマスク着用をお願いしております。

社会が感染対策の緩和に向かう中でマスクの着用についても、個人の考え方を尊重すべき段階にきていますが、病院内は感染すると重症化しやすい方が多くいらっしゃるため、引き続きのマスク着用にご協力をお願いいたします。

### 統合診療棟の穴底の土が見えなくなりました

令和7年運用開始予定の「統合診療棟」の建設工事は建物躯体のコンクリート工事が始まり、地下部分の穴底を覆う建物の基礎ができてきました。

統合診療棟の地下階には放射線を利用してがんなどを治療するリニアック治療装置が設置される予定です。これから装置による放射線を室外へ漏らさないようコンクリートや鉄板等で1・5×2・5以上の遮蔽壁・床を作ります。

この壁の中に約2・5センチ鉄板を17層並べ、40センチ程度の鉄板壁ができました。今しか見えないこの壁により治療に必要な装置が安全に利用できるのです。

**遮蔽鉄板の建て込み**

- 約2.5cmの鉄板×17層=約40cm程度の遮蔽壁
- 鉄板1層の重さが約4.2t×17層=約70t



# 子どもたちのQOL向上を



## 新生児から15歳以下を対象に

### 小児外科

本院小児外科は主に新生児から15歳以下を対象に一般の消化器系だけでなく泌尿器、呼吸器、劇症肝炎のほか、鼠

径ヘルニアや虫垂炎などを含めた幅広い小児外科疾患の診療にあたっています。特に新生児疾患、臓器移植、小児栄養管理と内視鏡外科手術の面では全国の小児医療をリードする中心的存在として先進的な治療と研究に取り組んでいます。診療内容としては胎児期での外科的治療のほか、新生児期に手術が必要になる先天的疾患に対して本院産科と連携した出生前診断と手術を積極的に実施しています。



肝臓外科では胆道閉鎖症などをはじめとした疾患に対応しており、移植手術は生体肝を中心に脳死も含めこれまで肝臓で150例、小腸3例となっています。小児がんに対しては分子標的治療などにも力を入れています。2020年からは腸管不全治療センターを開設

し、腸管不全の最先端治療に取り組んでいます。スタッフは日本小児外科学会認定の専門医8人と大学院生7人の体制で年間の手術件数は約500件に上ります。私たちは常に「子どもたちにとって負担が少なく、成長の妨げとならない手術」を合言葉に、内視鏡などを利用し傷口が少なく済む低侵襲手術を積極的に実施しているほか、入院の必要のない日常的疾患などのケースでは日帰り手術も多く採用しています。一方で、専門の資格を持ったチャイルド・ライフ・スペシャリストの女性スタッフを中心に治療を受ける子どもたちの心理的負担を考慮して子どもと同じ目の高さになった、寄り添うケアに最大限の力を入れています。

イルームやきょうだいの面会室、洗面室も子どもの背丈に合わせた設計にするなど、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに留意しています。手術の際には「連れて行かれる」のではなく、赤いス

ポツカーに乗り「自分で運転して行く」と誇らしく手術室へ向かうなど、子どもが主役となり安心・楽しみ・自信をもって乗り越えられるよう、心の通い合う温かいケアを心がけています。

私たちは今後も治療を受ける子どもたちのQOL(生活の質)の向上を重視し、成長と発達を十分に考慮しながら、子どもたちにとって負担の少ない手術と治療を進め、地域医療とも密接に連携していきます。

い調製を行っています。また、遺伝性腫瘍の遺伝子診断に不可欠な遺伝カウンセリングを実施する部屋や、がん患者さんやご家族のための専門相談室も4階に設置しています。さらに、小児期からがん治療で入退院を繰り返している患者さん、思春期、若年成人の15歳から30歳代の患者さん

支援する「AYA世代(Adolescence and Young Adult) / 思春期・若年成人ルーム」も4階に設置し、定期的に講演会・交流会などを行っています。5階には、多様な診療科の医師・看護師などが集まり、治療方針などについて検討する

## 抗がん剤治療のみならず がんに関して包括的に対応



### オンコロジーセンター

オンコロジー(oncology)とは、直訳すれば「腫瘍学」、すなわち「がんに関する医学」を広く意味する言葉です。阪大病院のオンコロジーセンターでは、抗がん剤治療はもちろんのこと、がんに関する生活、仕事、社会活動などに関する包括的な対応を行っています。本院では「外来化学療法室」を2004年に設置しました。4階には薬剤部があり、抗がん剤の調製に特化した調剤室が設けられ、薬剤師が防護服を着用し、安全キャビネットを利用してより安全性の高

けておられる患者さんが激増していることをふまえ、2015年9月に「オンコロジーセンター棟」を開設しました。これにより、化学療法を受ける患者さんは外来棟内を複雑に移動することなく、血液検査・診察・治療の全てを一つの棟内で受けられるようになっていきます。センター棟の1階にはがん患者さん専門の採血室と検査室があり、同じ階の診察室で各診療科の専門医による診察を受けることができます。そして、すぐ上の2階あるいは3階に移動して化学療法を受けられます。化学療法専用のリクライニングシートとベッドは計42床あり、長時間の点滴に配慮してカーテンを備えるなどプライバシーが確保された、快適な治療環境を用意しています。

私たちは今後治療を受ける子どもたちのQOL(生活の質)の向上を重視し、成長と発達を十分に考慮しながら、子どもたちにとって負担の少ない手術と治療を進め、地域医療とも密接に連携していきます。

るためのカンサーボードホルが設置されています。同じ階に患者さんそれぞれのがんの遺伝子(ゲノム)の違いを検査し、その違いに基づいた個別化医療を実践するがんゲノム医療センターもあり、がんゲノム医療中核拠点病院に指定されている本院の役割を果たしています。

6月27日に岩崎朋之看護部長おすすめ「初夏の和風御膳」を実施しました。天ぷらには初夏を感じていただけるハモや季節の野菜を盛り合わせました。色彩豊かな松風焼き(特別食)や紫キャベツのさっぱり和え(一般食)も冷たいデザートとともに提供しました。「見た目も美しく味も美味しく日本料理を堪能しました」「食事に添えられたカードで看護部長の顔を拝見でき元気ができました」「食欲不振があるのですが、今日はいつもより食べられました。治療を頑張る勇気をもらいました」など、たくさんの感想をいただきました。食事が患者さんの楽しみと治療の一助になるよう今後も努力してまいります。

## PHOTO ミニ・ニュース TOPICS

### 新型コロナウイルス感染症対策 整備支援事業に採択



改修工事を行った陰圧室 学習環境を整備したデイルーム



### 第24回 阪大病院がんサロンを開催しました

6月16日にがん治療中に生じるさまざまな気持ちについて、臨床心理士による講演会を行いました。参加者の方からは「実際の体験談を数多く聞くことができよかった」などのお声を多数頂きました。次回は9月に歯科医師による講演会を予定しています。

### 特定行為研修4期生の研修が始まりました



特定行為とは、医師が行っている医行為の一部を看護師が行うものです。点滴の調整、動脈の採血、傷の処置などが該当します。研修では特定行為を安全かつ確実に実践するための理論や実技を学びます。研修を通じて習得した知識と技術を生かし、患者さんの治療やケアをサポートすることに取り組んでいます。

### 動画で 病院見学会



更新しました! 薬剤部編

新型コロナウイルス感染症対策のため、見送ることになった市民見学会に代わる新企画として2021(令和3)年から始まった「動画で病院見学会」を引き続き、順次公開しています。普段は見る事ができない本院の裏側や取り組みを担当者による解説などで紹介します。今回は、新たに「薬剤部編」を追加しておりますので、是非ご覧ください。



こちらからご覧ください